

長野県林業総合センター - 塩尻市片丘 5739

Nagano-prefectural Forestry Research Center

TEL 0263-52-0600

FAX 0263-51-1311

## ドングリを育てる

キ-ワ-ド:ドングリ、ナラ、育苗

ドングリとは

ドングリとは、一般にブナ科の堅い皮を持った丸い木の実の総称で、全国で17種類あります。長野県内にはクヌギ、コナラ、ミズナラなど図に示した10種類が自生しています。

ドングリという名前は、丸くて栗のようなかたちを意味する「団栗」がなまったものだとか、古い韓国語の丸いを意味する「ドングル・イ」からきているとか、使いにくい「鈍な栗」であるなど諸説がありますが、本当のところはまだわからないようです。

どこにあるのか

種類によって生育地は異なります。表に長野県内に自生するドングリのなる木の生息環境をまとめました。

ドングリを育てる

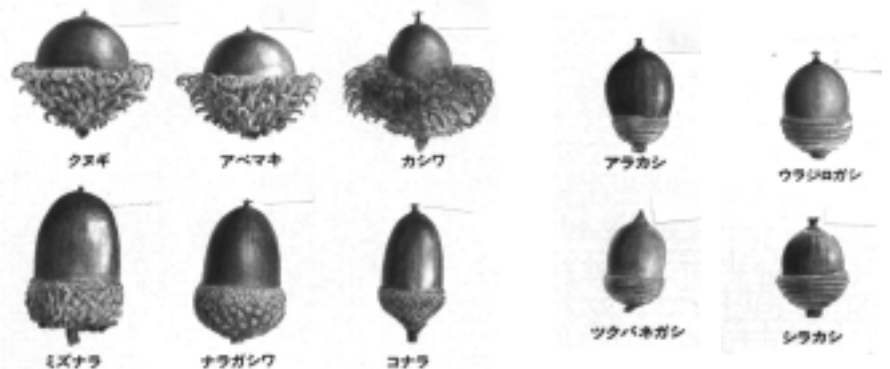


図 長野県に自生しているドングリ  
(いわさゆうこほか：どんぐりノートより抜粋)

表 長野県に自生するドングリのなる木の生息環境

種名	自生地	環境
クヌギ	全県で普通に生育	標高1000m以下の肥沃地
アベマキ	南部で普通に生育	標高600m以下でクヌギと混じることが多い
カシワ	全県で普通に生育	乾燥気味の肥沃地を好む
アラカシ	南部でまれに生育	標高500m以下で生育可能
ウラジロガシ	南信でごくまれに生育	標高500m以下で生育可能
ミズナラ	全県で普通に生育	多雪地や寒冷地でも育つ
ナラガシワ	全県でまれに生育	適潤地が望ましい
コナラ	全県でごく普通に生育	痩せ地に耐える
ツクバネガシ	南部でごくまれに生育	標高500m以下で生育可能
シラカシ	南信で生育し、各地で植栽されている	カシの中では耐寒性が高く、800m以下で育つ

### 1) いつ採るか

ドングリは9月頃から落下し始め、10月中下旬に最盛期を迎えます。ドングリは乾燥に弱く、またネズミなどに食べられてしまうため、落下後速やかに採集しなければなりません。

また、ドングリがたくさん落ちる時期の方が、虫食いも少なく、充実したものが多く採取できますので、落下の最盛期に集める方が効率的です。長野県内におけるコナラの種子は、北安曇郡白馬村(標高800m)で10月下旬、塩尻市片丘(標高850m)では10月中旬が最盛期でした。

なお、ドングリにも豊凶があり、並作以上の結実は2～3年に一度程度です。

### 2) とってきたら

ドングリを水につけて浮いてきたものを除去します。その後、流水の中に数日間つけて、ドングリの中にいる虫を殺します。ただし、数日間水につける場合には少しずつでも水が流れている状態にしないとドングリが酸欠を起こして死んでしまいます。

### 3) いつまくか

ドングリを育てるには次の二つの方法があります。

どちらの場合でも乾燥させると発芽しなくなりますので、注意しなければいけません。

すぐにまく(とりまき)

水につけたドングリを秋のうちにすぐにまきつけます。ドングリは秋のうちに根が出てそのまま冬越しをしますので、この方法がもっとも優れています。しかし、冬に土壤の凍結などでドングリが浮き上がることもあるので、寒冷な場所では春にまいた方が良いでしょう。

冬越しさせて春にまく

ドングリは乾燥させてはいけないため、湿らせた砂またはおがくずにまぜ、ポリ袋に入れて冷蔵庫(0～4℃)に保管し、春先(4月中旬頃)まきつけます。保管している間に白い根(幼根)がでてきますが、幼根が変色したり枯損していない場合は幼根の先を下にしてそのまま植え付けます。



写真 ドングリの苗木(ミズナラ2年生ポット苗)

### 4) 苗木にするには

まきつけるときには、ドングリは横向きにして、10cm間隔で地表から2～3cmの深さに埋め込んでおきます。まきつけた後、5月中に80%程度発芽し、秋までには20cm位になります。

2年目の春に20cm程度の間隔で床替えをします。床替えした後、苗長45～50cmに達したら苗木として山に植えることができます。

担当者 育林部 小山泰弘